

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 300

■ デジタルものづくり対応支援事業

2024 年度デジタル人材育成事業 実地研修報告会（会員限定）

ものづくり中小企業が、次世代自動車のビジネスを獲得するためには、「デジタルものづくり」に取り組む必要があります。しかし、「デジタルものづくり」の導入及び活用には、「ヒト（人材）、モノ（設備・装置）、カネ（資金）、情報」が必要であり、中小企業では、特に不足しているデジタル人材の確保が課題となっています。

そこで、次世代自動車センター浜松では、ものづくり中小企業のデジタル人材を確保する手段として、ものづくりを知っている技術者の中からデジタル人材を育成するため、2024 年度新規事業として、スズキ株式会社様のご協力をいただきスマートファクトリーやDXの取り組みの中から、テーマを絞って研修を実施するデジタル人材育成支援事業を企画しました。

今回、2024 年度に実施した2テーマ「市販AIセンサを使った品質検査」及び「変化点管理帳票のデータ化」について、実施いただいた会員企業の皆様と情報共有及び活用推進を図るため、実地研修結果及びシステムの評価について、報告会を開催しました。

■ 日 時： 2025 年 5 月 26 日（月）14 時～16 時 40 分

■ 場 所： グランドホテル浜松

■ 参加者： 8 社／26 名

<開会>



<挨拶及び事業の背景・経緯の説明>



【市販AIセンサを使った品質検査】

<平岡ボデー(株) 様>



<(株)アイゼン 様>



<三恵(株) 様>



<講評：スズキ(株) 様>



【変化点管理帳票のデータ化】

＜(株)ベルソニカ 様＞



＜浜名部品工業(株) 様＞



＜(株)三幸製作所 様＞



【全体総括】



【参加者の声】

＜市販 A I センサを使った品質検査＞

- ・当社以外でもカメラの設定に苦労されているのがわかった。実ラインでテストされた会社もあり進められているなど感じた。
- ・他社様の使用例を聞く事ができ、今後に生かせる内容だった。自社でも問題となっている外光の影響が、他社でも出ていることを知り、対策の参考となった。
- ・カメラの位置、照明の方法がとても重要ということが再認識できた。
- ・人の目に頼る検査は常に見逃しリスクがあり、正常に検出できるようになれば格段に保証度を上げられるので推進したい。
- ・A I の学習方法の簡便さが現場に活用してもらうカギになると感じた。誤判定率を少なくするために、判定が不確実だった場合カメラシステムが照明やカメラ角度を自身で変化させ、確実に判別できる様になると劇的に良くなると思った。
- ・今まで人の目で検査していた工程を A I カメラに切り替える良いきっかけになると感じた。A I カメラの課題を共有できたため、実際に各社が導入する際のイメージや留意すべき事項について理解が深まった。

＜変化点管理帳票のデータ化＞

- ・他社も同じような使い勝手、改善点をもたれていて自社だけでなくよかった。データ量が多いものでなく少ないもの（日報・引継書）には有効であると感じた。
- ・当社の変化点管理は複雑でデータ化には向いていなかったと思われる。もう少し簡単な帳票をトライする、または他社の購入を検討していきたい。
- ・帳票デジタル化のむずかしさがあらためて認識できた。
- ・変化点は紙で使用しているが、D X 化することで写真やデータなどが追加できるとより良い物になるとわかった。紙でも写真やデータが使用できると良いと思った。
- ・現場で使用する際に足りない項目がまだあることがわかった。自分で記入するより、決められた項目がある方が現場でも記入しやすく、使い勝手が良いと思った。
- ・デジタル化をするに、データの整理・整頓は必要だと感じた。現場がどう使えるかを考えることも D X 化を進めていく上で大事ということも認識した。
- ・開発側としては様々な使い方をしていただいたおかげで、この帳票に足りていない機能や使用者の思いをまとめて聞けて、今後の開発に参考になった。